

09 身近な場で行われる科学コミュニケーション活動を支援 地域の科学舎推進事業



事業の概要

科学技術の重要性が増す現代社会において、人々が科学技術について興味・関心を深めるために、身近で行われる科学コミュニケーションが果たす役割は大きい。JSTの「地域の科学舎推進事業」は、こうした科学コミュニケーション活動を支援している。

本事業は「地域活動支援」「地域ネットワーク支援」「全国規模ネットワーク支援」の3つに分かれ、支援対象は公募による採択で決定される。

「地域活動支援」では、地域で行われる体験型・対話型の科学コミュニ



「青少年のための科学の祭典 全国ネットワーク事業」の活動の一環である「青少年のための科学の祭典2010全国大会」の様子。

ケーション活動が支援される。支援対象は科学館などの機関や団体だけでなく、個人の活動も含まれる。

「地域ネットワーク支援」では、自治

体や大学を中核にして、地域の科学コミュニケーション活動を行うさまざまな活動主体が相互に連携しあう、地域のネットワーク構築活動が支援される。構築されたネットワークは、支援終了後も継続して地域の科学コミュニケーションの中核を担うことが期待されている。

「全国規模ネットワーク支援」では、全国規模のネットワークを持つ機関や団体が、そのネットワークを利用して行う科学コミュニケーション活動が支援される。現在は「青少年のための科学の祭典 全国ネットワーク事業」などがこの支援を受けている。

活動事例から

地域活動支援

「さいえんすママカフェぶち」

赤ちゃんを持つお母さん向けの天気教室というユニークな活動。子ども服店内のキッズスペースのような、こじんまりとした会場で、アットホームな雰囲気で行われている。

主催は日本気象予報士会所属の気象予報士が結成する「サニーエンジェルズ」で、講師は同団体に所属する気象予報士の資格を持つ女性が務める。

お母さんたちは、子ども（赤ちゃん）



と一緒に参加。お茶やお菓子を楽しみながら、天気に関するクイズやゲーム、実験などで、気軽に科学に触れることができる。もちろん、お母さんたちが集中できるように、子どもたちにはスタッフが常に気を配っている。なかには実験に興味を示して目を丸くして見入る子もいるとか。

注目度も高いようで、今年1月27日に横浜市金沢区で行われる回は、NHKラジオ第1放送の番組内で生放送される予定だ。

地域ネットワーク支援

「長州科楽維新プロジェクト」

平成20年度に採択され、今年度で3年目を迎えている取り組み。

山口大学が中核となって、山口県内のさまざまな機関と協力し、小中学生に科学技術の楽しさを伝え、明日の科学技術創造立国日本を担う人材を育成することを目的に、科学を楽しむ



ネットワークの構築を行っている。

プロジェクトでは、大学や自治体、科学館など多様な機関が連携して、科学教室や実験教室、「ボトルで作る世界一高い彫刻」としてギネス認定されたペットボトルタワーの作製イベントの開催のほか、ネットワークを利用した教材開発や開発ノウハウの蓄積など、さまざまな活動を行っている。

初年度は宇部・山口地区でプロジェクト参加が8機関だったものが、平成22年12月時点で64機関にまで増え、県全域にネットワークを広げている。

TEXT：大宮耕一